「英語と日本語をつなぐ」
だれよりも言葉を大切にした英語学者「島村盛助」
指導の手引き（案）

1　ねらい

郷土に誇りと愛着を持ち、夢と目的を実現するため、自らよりよく生きていこうとする態度を育てる。

2　資料の特質

（1）資料の内容

本資料は、主人公「わたし」が、毎日通う通学路にある大きな椋の木がそびえる家に心をひかれ、そこに住んでいた人物について祖父の話をきっかけに、「島村盛助」の英語に対する考え方や生き方に触れていくという内容のものである。

「わたし」は、何気なく通る通学路にある古風な家に心が寄せられ、登下校の楽しみになっている。そして、そこにどんな人が住んでいるのか興味を持って、祖父にたずねてみると、祖父は、その家で英語学者が生まれ育ったという思いもよらないことを教えてくれた。

「英語」というキーワードをめぐって、わたしと島村盛助との出会い。盛助について調べて行く中で、自分の住む郷土宮代に、自らの信念を貫き、今でも愛され大切にされている英語辞典等多くの英訳の作品を作り上げた人物が存在したことへの誇りと、島村盛助の考え方や生き方の素晴らしさに気づいていく。

そして、自分自身郷土に誇りを持ってよりよく学んでいこうとする主人公の心情や姿を描いた。

（2）資料の生かし方

小学校高学年から中学校にかけ、学習の大切さは何となく分かり頑張ろうという傾向も見られるが、反面、周囲に流されたり少しの失敗で諦めてしまったりすることも多い。

本資料では、島村盛助の生き方の象徴としての「生家」を通して、自分の目標に、強い意志を持って取り組み、よりよく生きようとすることの大切さを自覚させるとともに、郷土にそのような人物がいたことに対し誇りと夢を持って生きていこうとする態度を養いたい。

2　事前指導の工夫

・日頃の生活をふり返って、希望や目標を持った生活が送られているかをアンケートなどで調べておく。

・英語の学習についてその必要性や好き・嫌いなどの調査をしておく。

4　展開例

○話し合いの柱

○心に残ったところ話し合ってみたいところを発表させ話し合いの柱を立てる

・宮代に英語を研究した人物がいたことが初めてわかった。

・祖父から盛助について知らされた時の主人公の気持ちを話し合いたい

・盛助は、自分の信念を貫き英語の辞書を７年もかけてつくったのがすごい。

・初めの原稿が真っ赤になるまで、言葉を大切にした盛助に感動した。

・盛助は、英語学者でありながら日本語を大切にしたことがわかった。

・学芸員さんから、盛助について話を聞いたときの主人公の気持ちを考えたい。

・盛助の住居は、わたしに何を語りかけているのか考えたい。

（１）祖父の話を聞いた時のわたし

○心を寄せていた大きな椋の木の家に、英語学者が住んでいたことを祖父から聞いた主人公はどんな気持ちになっただろう

・えっ、あの家に英語の学者がいたなんて

・そんな感じの家出はないけど

・今まであまり聞いたことないけど、有名な人なのだろうか

・どんな本を書いているのだろう、調べてみよう。

・おじいちゃんは行ったことがあるんだ。自分も訪問してみたいな。

（２）何度も修正を繰り返しながら辞書の編纂に取り組んでいる島村盛助の心の内を考える

○盛助はどんな思いで、原稿用紙が赤く染まるまで注意書きや訂正をして英語辞書を編集していったのだろう。

・その英語に合った日本語を見つけなければ本当の辞書にはならない。

・この辞書を使う人が、分かり易く使いやすいようつくらなければ本当の英語辞書にはならない。

・どんなに時間がかかっても頑張ろう。

○（補助）盛助をそこまでさせたのはなぜ（どんな考えから）だろう。

（3）学芸員さんの話を聞き終わった時のわたし

○主人公は盛助のどんなところに心を打たれ、誇らしく思ったのだろう。

・盛助が英語学者でありながら、自分の国の言葉を大切にし英語辞書をつくったところに心を打たれた。
・盛助の思いや考えが、辞書を使う人に伝わったところ
・言葉にこだわりながら一生懸命自分の信念を貫いた心の強さ
・自分の住む宮代に英語学者として情熱と信念をもって活躍した人物がいること
・宮代の豊かな自然や環境の中で立派な人物が生まれたこと

○（補助）緑に囲まれた盛助の住居は、わたしに何を語りかけてくれているのだろう。

・目標を持って頑張って。
・疲れたらまたここに来て、元気になり頑張ってほしい。
・いつでも夢や目標を追い続けていって欲しい。
・ここに来ると、いつも盛助さんが見てくれているよ。

（4）終末

・盛助の資料を使って
・英語辞書（実物）を示して
・英和辞書の序文の言葉の引用
・心のノートの活用
・ゲストティーチャー（島村盛助関係者・資料館学芸員）の説話など

参　考

６年２組　道徳学習指導案

平成２０年２月５日（水）第５校時
指導者　大塚　健嗣
在籍児童数　３５名

１　主題名　　目標に向かって　　内容項目１－（２）

２　資料名　　－日本語と英語をつなぐ－
誰よりも言葉を大事にした英語学者「島村盛助」（宮代町教育委員会発行）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値

本時の内容項目１－（２）「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する」は、自分の夢や目標など高い理想の実現に向けて、信念をもって最後まであきらめず努力していこうとする人間の育成を図ることをねらいとしている。

特に、この時期の児童は、知識欲も旺盛で集団における自己の役割の自覚も一段と深まりを見せる。そうした中で、自己や社会について未来への夢や目標を抱き、理想を求めて主体的に生きていく力の育成が求められる。

また、児童が自らより高い目標を設定し、それを現実の生活と結びつけて日常的に努力していけるかというとそうではなく、周囲の雰囲気に流されたり少々の失敗ですぐにやめてしまったりすることが多い。むしろ、そうした場合の方が一般的で将来の夢や希望は、あこがれともとれるほど弱いものである。

しかし、子どもたちが体験する様々な出会いが、自分自身の生き方の目標となって形成されていくのもこの時期であり、特に道徳の時間の果たす役割は大きいといえる。

そこで、郷土に生まれ英語学者（翻訳者）として、「言葉」を大事にしながら、信念を持って、英和辞書編纂や英語翻訳の仕事を成し遂げた「島村盛助」の考え方や生き方に迫ることを通して、児童一人一人が誇りと夢をもって主体的に生きていこうとする態度を養いたいと考えこの主題を設定した。

（２）児童の実態

授業にあたり、次の意識調査を行った。（調査人数３４人）

１	将来なりたいと思っている職業がありますか。	ある３４人	ない　０人
２	目標とする人がいますか。	いる　６人	
３	今情熱を持って努力していることがありますか。	ある２６人	ない　８人
４	宮代町がすきですか。	好き２８人　どちらかといえば好き１０人 あまり好きではない　１人	

将来なりたい職業は様々であったが、全員が「ある」と応えている。また、今努力していることがあると応えている児童２６人（76.5％）と高い割合を示している。自分たちの住んでいる宮代町については、ほとんどの児童が愛着を持っていることが分かった。

この結果から、このクラスの児童は自分自身の将来に対して関心があり、少なからず夢や希望をもって生活している様子がうかがえた。これは、児童の主体的な生き方のよさと考えられる。この授業を通して、郷土に対する愛情や誇りという道徳的価値が、児童のさらなるよりよい生き方を追求する力となって欲しいと考える。

そして、子どもたちの生き方のよさを授業の中で触れ、自分見つめることを通して、ねらいとする道徳価値に対する実践力を高めていきたい。

（３）資料について

本資料は、主人公「わたし」が学校に行くと中にある大きな椋の木のそびえる家に心をひかれ、そこに住んでいた人物について祖父の話を聞き、それをきっかけに「島村盛助」の英語に対する考え方や生き方に触れ、心を打たれるとともに、自分自身郷土に誇りを持って努力していこうという主人公の心情を描いた。

普段何気なく通る通学路に、象徴的な大木と門構えの古風な家を意識し始め、ふとしたことから興味関心を持ち、島村盛助という人物とその業績、そして考え方生き方に触れ、心を打たれていく主人公の心情を話し合わせることで、児童一人一人の価値の内面化へ迫っていきたい。

さらに、今まで育ってきた宮代町に信念を貫き偉業を成し遂げた人物が存在していたことに対し誇りと愛着をさらに深め、自らもよりよい生き方をしていこうという積極的な姿勢をもたせていきたい。

4　事前指導

・ねらいとする価値にかかわる意識調査を実施し、児童の意識を把握する。

5　本時のねらい

郷土に誇りと愛着を持ち、夢や目標を実現するために努力を惜しまず、自らよりよく生きていこうとする態度を育てる。

6　展開

段階		学習活動 （主な発問）	予想される児童の反応	指導上の留意点　☆評価 （資料）	時間
導入	気づく	１アンケートの結果を見て今の自分を見つめる。	・全員が将来なりたい職業がある。 ・ほとんどが今も頑張っているけど、そうでない人もいる。	・学級の傾向を見て、今の自分を見つめさせる。 ・少し触れる程度にとどめる。 ☆　今の自分について考えることができたか。	3
展開	とらえる	２資料の条件・状況を知り、範読を聞く。	登場人物　わたし（主人公）前原中１年生 島村盛助（相方） 祖父　郷土資料館学芸員 条件・状況 主人の公わたしは、通学路にある古風な家に心がひかれ登下校の楽しみになっている。そこにどんな人が住んでいるのかおじいちゃんに聞いてみると、おじいちゃんは、その家で日本でも有数の英語学者が生まれ育ったという思いもよらないことを教えてくれた。	・島村盛助の生家の写真を示すことで児童に興味をもたせる。 ・登場人物、条件・状況を確認する。主人公であるわたしの気持ちの変化を考えながら聞くことを確認する。 ・心に残ったことや話し合ってみたいところを見つけながら聞かせるようにする。	

	3 心に残ったところ話し合ってみたいところを発表する。	・宮代に英語を研究した人がいたのを初めて知った。 ・祖父から話を聞いた時のわたしの気持ちを話し合いたい ・盛助の話を聞いたときの主人公の気持ちを話し合いたい。 ・盛助の住居はわたしに何を語りかけているのか考えたい。	・児童の感想をもとに、話し合いの柱立てをしていく。 ・場面絵を示しながら内容をまとめていく。	
深める	4 主人公「わたし」の心の変化を中心に話し合う。 ①祖父から島村盛助の話を聞いたときの主人公の気持ちを話し合う。	・えっ、あの古風な家に英語学者がいたなんて信じられない。 ・そんなの聞いたこともなかった。 ・どんな本を書いたのだろう。 ・あまり英語は得意じゃないな。 ・ほんとに有名なんだろうか。	・自分の通う通学路の家に、英語で有名な人がいたことを、自分自身に置き換え驚いている様子や気持ちを引き出したい。 ・ずっと昔なのに、英語をどうして研究したのか、どうして英語なのかというような児童の素直な気持ちに共感させる。 ☆主人公の素直な驚きに共感できたか（補足や同化）。 ・インターネットを開いて驚く主人公について補いながら進める。	
	②７年の間、何度も修正を繰り返しながら、英語辞書の編纂に取り組んでいる盛助の心の内を話し合う。 ※盛助はどんな思いで長い時間をかけて辞書の編纂に取り組んだのだろう。	・日本語と英語を結びつけたい。 ・英語にあった日本の言葉をさがさなければ本当の辞書にはならない。 ・日本人が分かりやすく使いやすい辞書をつくろう。 ・どんなに時間がかかっても自分の納得がいくまで頑張ろう。 ・盛助が日本語を大切にしながら英語の辞書をつくったところに心を打たれた。	・１、２年で完成するはずが、７年も仕事が続いている時の気持ちも考えさせ、そういうときの心の状態についても想像させる。 ・盛助の情熱を支えている思いや考えにも触れられるようにする。 ・児童のそれぞれの価値観（「言葉を大切にしよう」「使う人が役に立つ辞書をつくろう」等）を大事にしながら話し合わせる。 ・自分の考えを実現するために努力を惜しまなかった点に目を向けさせたい。 ☆多様な価値観に触れながらも、目標に向かって努力する盛助の姿が捉えられたか。	

		③学芸員さんの話を聞き終わった時のわたしの気持ちを話し合う。 ※学芸員さんの話を聞き終わったとき、わたしはどんな気持ちになっただろう。 ・緑に囲まれた盛助の住居は、わたしにどんなことを語りかけてくれているのだろう。	・一生懸命自分の信念を貫き通した盛助の生き方はすごい。 ・自分の住む宮代町に英語学者として情熱と信念を持って活躍した盛助に感動した。 ・自分も今やらなければならないことを頑張りたい。 ・目標を持ってがんばれ。 ・自分の夢や目標を追い続けて努力して欲しい。 ・疲れたら、いつでもここに来て元気になってください。	・自分の身近な所に、大きな夢や目標を持ち、それを実現していった人物がいたことをおさえる。 ☆主人公が自然にこみ上げてくるものが何なのか、児童の言葉で表現できたか。 ・盛助の生まれ育った象徴的な住まいが、いつも自分自身に声援を送っているような気持ちになりながら発表させ、ねらいとする価値の内面化を図る。 ・語りかけていることは、わたし自身が思っていることであることに気づかせる。	
	みつめる	5　教師の話を聞く	・誰の辞書だろう ・盛助の思いが使う人に伝わったんだ。	・盛助の編纂した辞書を学生の頃実際に使った校長先生が、今でも大切にしている話をする。（岩波英和辞書）	
終末	あたためる	6　6年2組のアンケートをふり返る。	・自分も頑張ろう。	・6年2組の児童全員が将来の目標を持っていること、宮代町が好きであることを示し、実践への意欲がもてるようにする。	

7　評価

＜児童＞

・主人公の気持ちの変化や「島村盛助」の辞書編纂に取組む様子を話し合うことを通して　　自ら目標をもって努力していこうという心情が高まったか。

＜教師＞

・児童の心にひびく話し合いをするための、発問、資料の提示、導入・終末の扱いは、適切だったか。

8　事後の指導

・日々の児童の生活や活動の中で、そのよさを具体的な行動や成果として評価し励ましていく（個別に、学級全体で）。

9　その他の学習

・総合的な学習に時間などで「島村盛助」を扱い深める。
・資料館に出かけて調べる。
・主人公の追体験をしてみる。